

平成21年 5月28日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19530745

研究課題名（和文） 教員免許更新講習の在り方

研究課題名（英文） Some Issues about Renewal System of Teacher 's License

研究代表者

氏名（ローマ字）：天笠 茂（AMAGASA SHIGERU）

所属機関・部局・職：千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：80151116

研究成果の概要：千葉県教育委員会と連携しながら作成した「教員免許更新講習プログラム」は、予備講習で高い評価を得た。テキストの作成と活用は必修12時間の講座の質を維持する上で有効であることがわかった。

千葉県・大学の「免許更新講習に関する情報交換会」を3回実施し、円滑な講習実施に向け準備を進めた。山形・福島・岐阜で聞き取り調査を行い、成績評価の問題や教育委員会と連携した講座運営、大学間連携による講座等の情報を得た。

今後の課題として、10年経験者研修をはじめとする現職研修との整合性の検討などを含めた提言を報告書「教員免許更新講習をめぐって」にまとめた。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 1,900,000 | 570,000 | 2,470,000 |
| 2008年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,800,000 | 840,000 | 3,640,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：教育政策・教員免許更新制

1. 研究開始当初の背景

中央教育審議会は平成18年7月11日に「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の答申をまとめ、①大学教職課程の質的水準の向上②教職大学院制度の創設③教員免許更新制の導入の三つの柱を示し、全体として教員に必要な資質能力の養成と保障をはかる方策を提言した。

本研究課題は③教員免許更新制の導入について焦点をあてたものである。

教員免許更新制が導入された背景には、いわゆる指導力不足教員の増加や不祥事等により、国民の教員に対する信頼が揺らいだ事実があることは否定できない。この制度は、いわゆる不適格教員を排除するものではなく、更新後に自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得るためのものだとし、具体的には、有効期限無期限の教員免許状を「10年間の有効期限付き」にし、有効期限の満了前の直近2年間程度の間、「3

0時間程度の免許更新講習」を受講・修了することで更新されるとしている。

本研究課題は、この答申を受けて、「教員免許更新制の導入」にかかわる課題は何かを千葉県教育委員会・千葉市教育委員会と連携した調査研究と実践的研究によって明らかにしようとしたものである。

2. 研究の目的

教員免許更新講習の在り方を千葉県教育委員会・千葉市教育委員会と連携して調査研究、実践的研究を通して明らかにする。

- (1) 教員免許更新講習プログラムをどう構築するか
- (2) 千葉県・千葉市・県内大学と連携した更新講習受け入れ体制をどう構築するか
- (3) 10年経験者研修等の現職研修との整合性をどうつけるか

3. 研究の方法

【19年度】

- (1) 千葉県教育委員会との連携した取り組みについて
 - ① 「免許更新講習ワークキンググループ(WG)」の設置し、課題を明らかにする。
 - ② 「免許更新制を契機とした県教委・千葉大学連携協議会」の開催し、情報交換をする。
- (2) 教員の意識調査の実施(2回)と分析について
 - ① 調査1「教員の研修ニーズ調査」の実施と分析をする。
 - ② 調査2「免許更新制について認知度・ニーズ調査」の実施と分析をする。
- (3) 大学間連携に関する取り組みについて
 - ① 「免許更新講習に関する情報交換会」を開催し、情報交換をする。
 - ② 先進地域の視察・聞き取り調査を実施し、情報収集をする。

【20年度】

- (1) 教員免許更新講習プログラムの作成について
 - ① 千葉県教育委員会と連携しながら、「教員免許状更新講習プログラム」(必修12時間・選択18時間)を作成する。
 - ② 「教育の最新事情」(必修12時間)のテキストを作成・活用し、その効果を検討する。
 - ③ 「出前講座」を実施し、講座の内容や運営等についての評価・分析をする。
- (2) 大学間連携・千葉県との連携による教員免許更新講習の在り方について
 - ① 千葉県と大学と連携した「免許更新講習に関する情報交換会」(2回)実施する。

- ② 教育委員会との連携に関する聞き取り調査・情報収集をする。

- (3) 調査研究、実践研究のまとめについて

2年間の調査研究、予備講習の評価・分析をもとに、教員免許状更新講習の在り方や今後の課題を報告書にまとめ、研究成果を公表・発信する。

4. 研究成果

【19年度】

- (1) 千葉県教育委員会との連携した取り組み
 - ① 「免許更新講習WG」(4回)により、最新の情報交換をし、更新講習に向けての課題を明らかにしていった。更新講習の対象者人数の把握と受け皿の確保(量の確保)が喫緊の課題であることが確認された。教員のニーズに関する調査のサポート等の他、更新講習プログラムの検討(質の確保)も行った。
 - ② 「免許更新制を契機とした県教委・千葉大学連携協議会」を開催し、「現職教員研修」や「更新講習」の試行・本実施に際し、今後も連携推進の確認をした。
- (2) 教員の意識調査の実施(2回)と分析
 - ① 調査1「教員の研修ニーズ調査」(小・中教員280名)の分析から
2007年6月～7月にかけて「市原スキルアップセミナー」と「10年経験者研修」の受講者に対して、調査1を実施した。
全ての年代に「共通するニーズ」(教育相談・特別支援教育・保護者対応等)のほか、30代～40代群では各教科指導・学級経営・道徳教育等に、50代群では、同僚との人間関係づくり・スクールマネジメント等へのニーズが高かった。
教員のニーズや「ライフステージ」に応じた講習内容(必修・選択)を検討することで、教職員の参加意欲も高まり、教員の資質向上につながることを示唆された。また、「年代別研修」の必要性も示された。
 - ② 調査2「免許更新制について認知度・ニーズ調査」の分析から
2007年12月～2008年1月にかけて千葉県内に勤務する幼～高校教員379名に対して調査2を実施した。
その結果、「教員免許更新講習」の実施はほとんどが知っているが、具体的な内容はよく知らないことがわかった。「何年度からか」「対象は何歳か」は約7割、「対象年齢の1年前から受講可能」は9割が知らなかった。講習受講時期は、土日や夜間よりも「夏季休業中」の希望が多く、受講場

所は、「地元で受けられる出前講習」(39.2%)「千葉大学」(27.0%)「居住地・勤務地に近い大学」(21.5%)を利用したいと考え、「インターネット・放送大学の利用」は10.9%であった。講座内容で「複数の大学で受講を考える」と回答した教員は半数を超えた(53.3%)。

この結果は、大学間の連携が必要になる可能性を示唆している。

(3) 大学間連携に関する取り組みについて

本学が中心となり「免許更新講習に関する情報交換会」(2008.2.21)を開催。(県内26大学が参加)「教員の意識調査」(調査1・2)の報告や現在の準備状況等について情報交換を行った。この会には文部科学省関係者、千葉県教育委員会関係者も参加し、教員免許状更新講習について理解をするとともに、大学間連携の必要性と情報交換会の継続を確認した。

その他、大学間連携を模索している山口大学・鳥取大学・岡山大学で聞き取り調査を実施した。

【20年度】

(1) 教員免許更新講習プログラムの作成について

必修12時間の充実(質の確保)のために、14章からなる「教育の最新事情」のテキストを作成した。

このテキストを活用して千葉大学からみると遠隔地である館山市(2008.8.25~26)と銚子市(8.28~29)でおのおの3人の講師による「出張セミナー」を実施した。

テキストを活用することで、「全体を通して他の教員に勧めたい講座である」に対しての肯定的評価が94%になるなど、受講者から高い評価を得ることができた。(館山会場115名・銚子会場94名の評価)

テキストの活用は講座の質を維持する上で有効であることがわかった。受講者評価を踏まえて、改訂したテキストを21年度からの本講習で使用する計画である。

選択18時間の講習においては、「10年経験者研修」で実施してきたプログラムをベースに18時間を1セットとした予備講習を行った結果、同様に高い評価が得られた。

予備講習の課題として、講座の受付システムや運営についての課題と出前講座の施設の課題が指摘された。他大学の聞き取り調査、情報交換会では、受付システムの問題と募集人数より多かった場合の受講者決定をどうするかなどの課題が挙げられている。(本学では受講者評価は21年度の募集・運営に反映している。)

(2) 大学間連携・千葉県との連携による教員免許更新講習の在り方について

① 昨年に引き続き、本学が中心となり、千葉県と大学と連携した「免許更新講習に関する情報交換会」(2008.6.19、2008.12.18)を実施し、よりよい更新講習の運営のしかたについて情報交換を行った。予備講習での受付システムの問題や講座数、受け入れ人数等について情報交換をした。それにより、21年度の対象者受け入れ枠がかなり確保されることとなった。

② 地元教育委員会と連携した更新講習について、山形・福島・岐阜で聞き取り調査を行った。予備講習では、「不可」にするときの基準や教育委員会と連携した講座運営や講師の確保、大学間連携による講座などの情報を得ることができた。岩手、岐阜、鹿児島等、教育委員会が独自に更新講習を開設する地域があることがわかった。

日本教育大学協会研究集会(三重大学)に参加し、「大学間連携」「行政機関との連携」等の情報収集と分析をした。

(3) 調査研究、実践研究のまとめについて

【成果】

調査1・2の自由記述では、教員免許更新制導入について、批判的なものが多かった。「教員として必要な資質能力が確実に保持されるよう刷新(リニューアル)すること」が導入の目的の一つであるならば、その講習が受講者にとって、有益なものでなくてはならない。

今回の千葉大学の予備講習は受講者から必修・選択講習とも高い評価を得た。

その要因として①「講習が無料」②「意欲的な受講者」③「経験豊富な講師」④「良質のテキスト」等が挙げられる。

③「経験豊富な講師」についてだが、「出前講座」を担当した講師は、いずれも教員研修会の講師経験が豊富な50代の教員であった。受講者の自由記述にも講師の対応の良さを指摘する評価があった。

④「良質のテキスト」も高評価の要因となる。21年度から始まる本講習は、経験豊富なベテラン教員ばかりが担当する訳ではない。講習の「量的確保」と「質的確保」を同時に満たすためには、「自分で学びを確認できるテキスト」が必要になる。良質のテキストを活用することが、講師の「経験」や「専門性」を補うであろう。

【課題】

実務的な課題としては、①講習受付業務の問題②必修の校種別開講が挙げられる。

①については、本講習では「受講料の払い

込み手続」等が加わり、受講の可否、受講者の重複申込、キャンセル対応など受付業務に関する様々な問題が考えられる。システムの構築と点検などが必要になる。

②については、全国で実施された予備講習の選択講習においては、受講対象を限定して実施したのに対して、必修12時間講習では、校種別に開催したところは見られなかった。千葉大学の館山会場の「出前講座」では、幼稚園教諭から高校教諭、特別支援学校教諭に養護教諭まで受講しており、受講者だけでなく、講師も講座運営に苦慮したとの報告があった。必修講習の「校種別開講」が今後の大きな課題となる。

中長期的課題として、免許状更新講習を既存の研修の中にどう位置付けていくのかという問題がある。「10年経験者研修」との整合性だけでなく、現職研修全体と免許状更新講習の整合性の確保が必要である。

これは、研修体系の一部修正、見直しでは解決ではない問題で、現職研修体系の再構築が期待される。再構築にあたっては、教員の養成・採用・研修の一体化を考え、大学と教育委員会が連携したワーキンググループ等で検討する必要がある。

さらに、検討課題として免許状更新講習の開設者としての都道府県、政令指定都市教育委員会のかかわりが挙げられる。すでに、岐阜、岩手、鹿児島県など、積極的に役割を果たそうとする教育委員会があるが、免許状更新講習に対して距離を置く教育委員会が多い。教育委員会は、教員研修体系の構築の主体となること、また免許状更新講習の開設者となりえることを考えると、今後、免許状更新講習に対する各教育委員会がどのようにかかわるのが検討課題となるであろう。

21年度は、免許状更新講習の本実施である。「評価」（修了認定基準）などの問題を含め、さまざまな課題が出てくることが予想される。本来の目的を十分に考えて、教員が安心して質の高い講習を受けることができるように大学、教育委員会が連携して免許状更新講習を実施することにより、教員の資質向上につながることを期待する。

2年間の調査研究・実践研究を、前述の内容を含む報告書「教員免許更新制をめぐって」（2009.3）にまとめた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

1 天笠茂，免許更新制をめぐる諸問題，千葉大学教育実践研究，第16号，1，6，2009，査読無

2 保坂亨，教員免許更新制に向けての取り組み：これまでの経過と課題，千葉大学教育実践研究，第16号，7，22，2009，査読無

3 笠井孝久，土田雄一，伏見陽児，保坂亨，吉田雅巳，天笠茂，現職教員を対象とした免許更新制に対する認識調査，千葉大学教育実践研究，第16号，23，32，2009，査読無

4 笠井孝久，土田雄一，伏見陽児，保坂亨，吉田雅巳，天笠茂，委託研究生を対象とした教員免許状更新講習予備講習，千葉大学教育実践研究，第16号，33，38，2009，査読無

5 土田雄一，伏見陽児，保坂亨，吉田雅巳，教員免許状予備講習／必修12時間の実践，千葉大学教育実践研究，第16号，39，48，2009，査読無

6 土田雄一，笠井孝久，保坂亨，伏見陽児，教員免許状予備講習／必修18時間の実践，千葉大学教育実践研究，第16号，49，54，2009，査読無

7 土田雄一，市川洋子，伏見陽児，現職教員はどのような力をつけたいと考えているのか，千葉大学教育実践研究，第15号，35，41，2008，査読無

〔その他〕（計1件）

「教職研修」編集部，千葉大学における「予備講習」の実際，教員研修8月号，教育開発研究所，104，107，2008

6. 研究組織

(1) 研究代表者

天笠 茂 (AMAGASA SHIGERU)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：80151116

(2) 研究分担者

伏見 陽児 (FUSHIMI YOHJI)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：20156813
保坂 亨 (HOSAKA TORU)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：30173579
笠井 孝久 (KASAI TAKAHISA)
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：40302517
土田 雄一 (TSUCHIDA YUUCHI)
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：10400805
吉田 雅巳 (YOSHIDA MASAMI)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：80221670